

2021年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書

(協力活動) / 調査・研究)

提出日:2022年10月31日

氏名:岡本 龍太

プロジェクト名称:タンザニア小規模農家支援のための実証実験

実施国:タンザニア

実施期間:2021年10月1日～2022年8月31日

1 活動実施内容概要

本プロジェクトでは、タンザニアの小規模農家の貧困問題を解決するため、農家が抱える3つの課題(農業資金の不足、農業技術の不足、マーケットへのアクセス不足)を解決すれば農家の収入を増やすことができるという仮説の検証を目的として実施しました。

具体的には、2022年8月末までに本プロジェクトの助成金を通じて10名の農家に対し以下の農業支援サービスを提供し、以下の点を比較調査しました。

- ①プロジェクト対象農家と対象外の農家の収量比較
- ②プロジェクト対象農家の中における収穫量が多い農家と少ない農家の比較

尚、サービスの提供にあたっては農家の生産工程を管理する管理者をタンザニア人から選定して、同管理者を通じて行っています。管理者の選定は、協力隊時代に特にお世話になった人の中から、「日中に協力出来る時間があること」「スマートフォンを持っており連絡のレスポンスが良いこと」「トウモロコシの栽培知識を持っていること」を条件として選びました。

<実施内容(サービス内容)>

2021 年 10 月

- ・農家10人の選定
(25人の応募があった中から「畑の距離の近さ」「トウモロコシの栽培実績」「プロジェクトの理解度」を基準に選びました)

- ・本サービス提供の契約
- ・土地の契約

11 月

- ・土地整備(2エーカー×10人)、資材の購入と農家への分配
- ・農業セミナー実施
 - 〈テーマ〉適切なトウモロコシの種植えと施肥について
 - 〈回数〉1回
 - 〈人数〉合計32人(本補助金使用10人+自己資金使用22人)
 - 〈実施場所〉ルブマ州、ソンゲア

12 月

- ・種植え(トウモロコシ)

2022 年 1 月

- ・肥料、草刈り
- ・農業セミナー実施
 - 〈テーマ〉適切なトウモロコシの草刈り(お手入れ)について
 - 〈回数〉 1回
 - 〈人数〉 合計32人(本補助金使用10人+自己資金使用22人)
 - 〈実施場所〉ルブマ州、ソンゲア

2 月～5 月

- ・草刈り

7 月

- ・収穫、収穫量計測

8 月

- ・振り返り(収量の多い農家と少ない農家を比較し原因を調査)

2 活動の結果・成果

(具体的に何がどう変わったか、何がどういった状態に変化したかを記述)

＜プロジェクト対象農家と対象外の農家の収量比較＞

農家	地域	平均収穫量(1ac)	予想販売額(1ac)
プロジェクト対象 の農家(10名)	ルブマ州ソンゲア	1,846Kg	1,107,600TSh (600Tsh/kg)
プロジェクト対象外 の農家(10名)	ルブマ州ソンゲア	900kg	405,000Tsh (450Tsh/kg)

＜プロジェクト対象農家の中における収量が多い農家と少ない農家の比較＞

農家名	地域	収穫量(1ac)	考察(結果の原因)
Andrew	ルブマ州ソンゲア	2,118Kg(良)	十分な収量が得られた
Flaviani	ルブマ州ソンゲア	1,970kg(良)	十分な収量が得られた
Frowini	ルブマ州ソンゲア	2,382kg(良)	十分な収量が得られた
Teofrida	ルブマ州ソンゲア	2,345kg(良)	十分な収量が得られた
Wifridi	ルブマ州ソンゲア	2,879kg(良)	十分な収量が得られた

Ilolimus Komba	ルブマ州ソンゲア	2,292kg(良)	十分な収量が得られた
Getruda	ルブマ州ソンゲア	1,500kg(中)	痩せた農地を選択した
Sara	ルブマ州ソンゲア	1,120kg(少)	管理者の指導が行き届かず適量の肥料が使われなかった
Adamson	ルブマ州ソンゲア	1,020kg(少)	管理者の指導が行き届かず適量の肥料が使われなかった
James	ルブマ州ソンゲア	840kg(少)	管理者の指導が行き届かず適量の肥料が使われなかった

<本プロジェクトの結果>

以上のことから、プロジェクトの導入により農家の収穫量を2倍強まで増加できることが判明しました。一方で、そのためには肥料の適切な使用が徹底されること、また農地の選定を適切に行うことが必要であることも判明しました。

<農家から見たプロジェクトのメリット>

- ・必要な農業資材がすぐに届くため安心して農作業に集中出来る
- ・農業専門家から適切な方法を学ぶことができる
- ・肥料価格が高騰し、自分では購入出来ない場合でも資材を獲得出来る

3(申請時に)期待された効果と実際の相違点

異なる場合はその原因と対処内容、及びその対応による結果

当初期待していた、「農家が抱える3つの課題(農業資金の不足、農業技術の不足、マーケットへのアクセス不足)を解決すれば農家の収入を増やすことができる」という仮説については、上記の結果の通り一定の効果が示されました。

一方で、以下の課題が見えてきました。

①<肥料価格高騰への対応>

世界的に肥料価格が高騰したため、当初の想定よりも多くの農業費用がかかり、農家の利益を圧迫する可能性が生じました。

しかし一方で、肥料価格の高騰により多くの農家はトウモロコシの栽培自体を行うことが出来ていません。

その結果、市場のトウモロコシ供給量が不足するため、販売価格が高くなり、本プロジェクト対象農家の収入は想定並に向上するものと予想しています。

(収穫物の販売は2022年11月～12月頃を予定)

②<肥料の適切な使用および適切な農地選定を徹底する管理体制の構築>

本プロジェクトを通じて、この活動の成功には、肥料の適切な使用および適切な農地選定が重要であることが判明しました。

そのため、次回以降はこれらの点を重点的に管理することを前提とした管理者選定を行います。

4 活動成果の持続発展性

本プロジェクトを通じて、タンザニアの農家の収入向上が実現可能であることが見えてきました。今後は自己資金で再度実証を継続し、課題をクリアした段階で活動を拡大、タンザニア内の他地域への展開を行います。

5 苦勞した点、反省点、本活動を通じて得られたこと、学んだこと、教訓等

＜苦勞した点＞

- ・本プロジェクトの対象農家の選定に際し、多くの農家が参加希望を申し出てくれたものの、予算内に収めるため参加を断らざるを得ない農家がありました。彼らの説得に苦勞しました。
- ・収穫量が少ない農家の原因を探るために詳細なインタビューを行ったものの、スワヒリ語を介して正確な情報を取得することに苦勞しました。

＜本活動を通じて得られたこと＞

助成金によって10人分の農家が本プロジェクトの実証に加わり、実証の前進にとって大きな一助となりました。

本プロジェクト外として自己資金のみで22人と実証を行っており、10人の追加は非常に大きな割合です。自己資金で行うよりも多くのデータ収集が可能になりました。農業の実証は1回あたり1年かかるため、1回の実証をより大きな規模で行うことが出来たことは今後の本格展開に向けた一歩として大きな意味がありました。

6 ご自身の今後のプラン、及び本活動の活用予定・計画

今後は、今回判明した課題の対策を盛り込んだうえで、2022年11月～1年間をかけて、再度サービスの提供を行います。

農家の収穫量が安定して上がる状態にした後に外部からの資金調達を行い、サービスを提供する農家の数を拡大する予定です。

農家の数を拡大することで、事業としての収益性と貧困解決のための社会性を両立する活動を行ってまいります。

【プロジェクトの様子】



現地の管理者たちと駐在中のメンバー(井崎)



耕した畑で畝の間隔を計っている様子



無事に芽が出て嬉しそうな農家さん



トウモロコシが大きくなってきた様子



トウモロコシの品質を確認している様子



収穫したトウモロコシ

以上